

館林市総合計画審議会 第2回経済と都市の部会 議事録【概要】

1 日時

令和2年5月20日（水）午後1時30分から午後3時25分まで

2 場所

館林市役所5階 研修室

3 出席者

【審議会委員：9名】

荒川博人委員 石井雅子委員 市川顕委員 佐藤聡委員 中村喬委員 三田英彦委員
櫻井正廣委員 川村幸人委員 蓼沼直治委員

【策定事務局参事：13名】

産業政策課長 都市計画課長 安全安心課交通防犯係長 農業振興課長 商工課長
つつじのまち観光課長 道路河川課管理係長 緑のまち推進課長 建築課長 区画整
理課長 農業委員会事務局長 群馬東部水道企業団館林支所長

【事務局：2名】

企画課長、政策推進係職員

4 会議内容

(1) 開会

(2) 部会の進め方

事務局より総合計画の構成、基本計画素案の見方、審議の進め方について説明。委員の皆様からの主なご意見・ご質問、審議結果は以下のとおりです。

(委員意見・質問)

- ・部会の進め方について、実施計画レベルでの審議が必要かどうかについて、審議会委員の皆様からも意見をいただきたい。

(委員回答)

- ・そこまで細かいものは必要ないが、過去にやってきたことが必要。
- ・総合戦略の一部を提案し、それに基づきこんなことをしたら館林が豊かになるということから逆に基本目的が生まれても良い。
- ・「アウトカム別指標リスト実績報告書」を見ると数字があり、課題がある程度わかる。ここから何か申しあげたらいいと思う。
- ・基本構想、基本計画を審議するうえで実施計画も必要。
- ・時間的なものもあると思うが、その辺で進めていければよい。
- ・実施計画に全く入らないということではなく、できれば入る必要がある。
- ・実施計画レベルに落とし込めないような絵空事を出さないためには、実施計画レベル

の数値も必要。

(委員意見・質問)

- ・市で業務棚卸や事業評価をしているのだから、その資料を出していただければよい。
- ・事業評価を皆にメールで配布し、読んでもらえば理解してもらえる。
- ・依頼していた各種データを出すことなく、何故今日素案を議論するのか。

⇒本日の資料（達成度調査報告書）については、策定委員会で検討した結果、一番適切であるとして配布している。

事業評価については、事業に特化しており、何の事業でどの分野に入るのか分からないため、お出ししなかった。

また、業務棚卸についても、総合計画を審議するまでの精緻なものではなく、導入はしたが効果的に回っていないという反省点もあるため、お出ししなかった。

市民に対する事業であり、事業をインプットすればアウトプットですぐ戻ってくるものではない事業がたくさんある。そのため道しるべとなる総合計画を策定している状況である。

- ・きちんとした政策評価を事業レベルでやっていただきたい。事業レベルの評価の課題集を市で作し、市、市議会、審議会で議論するという形で審議会を進めてはどうか。
- ・事務局としてはどのくらいまでできるのか。

⇒策定委員会で決定した資料となるので、いただいたご意見は持ち帰り検討したい。現時点では、市民アンケート調査などが一番のよりどころになり、総合計画ができているということをご理解いただきたい。

- ・市で行っている事業評価を見せられるものではないということだが、どうしてか。
- ⇒事業評価については財政的なもので、総合計画の施策の位置づけが書かれていない。どこの事業に位置するのか極めて分かりづらいので、出すことを控えた。

- ・事業評価について、事業が予算一つ一つとリンクしていないのかもしれないが、それを見せてもらえばいろいろなことが分かるので、奥行き深い議論ができる。
- ⇒施策に対していくつかの事業がぶら下がっているが、事業評価だけではどこにつながるのかが分からないため、出すことを控えた。

- ・資料がないなら、何か月かかるか分からないが、予算と事業と施策が連動した資料をつくり、市議会、審議会で提出し、評価を受けて、次の総合計画を作るという手順を踏むべき。それを作って配布し、議会で検討し、審議会で検討するというプロセスを踏まえて、協働して総合計画をつくるということはできないのか。

- ・ミクロの視点とマクロの視点の同時進行でもいいと思う。大項目を考えるときにディテールが分からない時には、ミクロとマクロを行き来するのでいいのではないかな。
- ・全ての資料を見ることも大切だが、審議会として時間も限られている。委員の皆様が疑問に思う部分について、担当課に一つずつ聞いて、素案について進めていく以外ない。事務局はいかがか。

⇒そのような進行でお願いしたい。

- ・素案を見ると館林特有というよりも一般的な感じがする。どういうポテンシャルがあるという説明がない。共通の認識を持つためにもSWOT分析をした方が良い。
- ・今後の部会の進め方としては、現状と課題を一つずつ検討し、疑問があるところは市に伺い、その結果として議論して潰していくしか方法がない。
- ・次回までに事業評価をした資料、方向性の根拠となる資料を作ってください、資料を全員が読み、それに基づいて発言をするという部会の進め方はできないのか。
- ・委員の皆様の質問に、事務局側が答えられるデータを審議会の時に持っているということが重要。欲しいデータを要望し、出せないものであれば次回口頭で説明するなど、皆様から欲しいデータを集めることで進めていきたい。それでよろしいか。

⇒事務局としては、今現在答えられるものは答える。ある資料、無い資料あるので、お出しできない場合もあるが、ご了承いただきたい。

(3) 議事

① 前期基本計画素案の審議

分野：産業の審議を行いました。委員の皆様からの主なご意見・ご質問、審議結果は以下のとおりです。

■ 分野：産業

- ・指標1「企業立地及び既存企業の設備投資実施件数」について、1年に1件くらいで、外からの投資がなかなか増えない。その分析はどうなっているのか。用地が増えれば増えてくるのか。
- ・指標2「従業員一人当たりの付加価値額」について、7年間増えないというのはどういう政策なのか。
- ・指標3「製造品出荷額」も7年たっても増えない。本当に増えなくてもいいのか。

⇒指標1「企業立地及び設備投資の件数」について、現在の館林における民間への売却可能な用地については在庫がなく、新たな設備投資というところでは、新たな企業致誘ができないため設備投資が進んでいない。

⇒指標2「従業員一人当たりの付加価値額」、指標3「製造品出荷額」のデータに関しては今一度精査してお示しする。

- ・産業の指標 1「企業立地及び設備投資の件数」と指標 3「製造品出荷額」の関係も教えてもらいたい。
 - ・商業の指標 3「遊休不動産の利活用件数」についても、現状値 1 件で 7 年後に 7 件、1 年に 1 件。大丈夫なのか。
 - ・去年から農商工連携プロジェクトが発足され、連携した事業をやろうということになったが、一つも書いていないので入れていただきたい。
 - ・企業誘致について、これまでの間に、どこにどういう用地を確保して、どれだけの企業が誘致できたのか。今後、どこでどういう企業を誘致したいのかということをご説明いただけないか。
- ⇒団地につきましては、平成 22 年の造成を最後に、新たな団地は造成していない。工業、産業、流通含め市内に 11 か所の団地を造成し、124 社の企業立地をいただいている。今後、新たな産業団地を作るべく、現在事業を進めている。
- ・大枠の話になるが、産業と農業が切り離されているのはどうか。分けていること自体問題があり、一個一個の課題分析ではなく、マクロな視点でやりたいと言っていたのはこういうところ。大分類の担当課の整理をしたほうが良いのではないか。
- ⇒産業というすべての分野にまたがるという考えもあるが、ここでは産業団地、工業団地の造成等、企業との連携をうたっている。できればこの分野で進めていきたいと考えている。
- ・補足すると、メインの担当課があるのは良い。必要な担当課を追加するということで、あらためてシャッフルすると言っているのではない。次の時代を担っていくという時に、縦割りが出てくるのは気になる。
 - ・総合的に産業を考えることが大切。縦割りにせず、総合的な新しいプランニングをしていただけないか。都市計画で商業地、住宅地、工業地、農業地というものをきちんと作り、それに連動して産業政策も展開していただきたい。
 - ・分野「産業」の課題は、館林の全てに当てはまる。これを解決するために、それぞれではなく、全体的に考えなくてはならない。
 - ・ポストコロナの議論を反映させるかどうかということも決めた方が良い。
 - ・既存の産業構造が続くという前提で、「産業」という分野の目標が作られているのではないか。館林市が新しくイノベーションを引き起こしたいと思うのであれば、未来

- 志向の文章を混ぜていかなければならない。
- ・ 館林に特化したことが書かれていない。できれば館林独自のものを書いてもらいたい。
 - ・ 各部署を混ぜるということではなく、このままでいいと思う。ただし、横断的にやってくれる戦略室のような、横ぐしを入れてくれるかたが一人でもいると面白い。
 - ・ 経済と都市の部会は可能性を秘めているので、東京に近い田舎館林をどうしていくとコロナ後を勝っていけるのかという意見ができればいいと思っている。
 - ・ 農業と産業と混在しているところもあるので、柔軟な対応をしていただきたい。
 - ・ 産業はいろいろな分野にまたがっているのが現状。一つの分野をどうこう言っても仕様がなくて、大きな部分での議論が必要である。
 - ・ 会議を進めていく中で時間も有り、与えられた資料に基づいて話し合いを進めていき、行ったり来たりしながらやっていかないと話も前に進まない。
 - ・ 館林の比較優位やポテンシャルを前面に出しても良い。
 - ・ 全体を通してIT化が見えない。
 - ・ 公民連携という言葉を使っているのなら、もう少し具体的な方向を示すなど、もう一歩踏み出してほしい。
 - ・ 客観的な世界の環境について書かれていない。市役所の中からこうしたいという発想だけである。もっと大きな戦いであるということを念頭に置いたまとめ方という視点を入れていただきたい。
 - ・ 次回の進め方だが、委員の皆様には、事前に準備をお願いし、産業の現状と課題についてスムーズに議論したい。データが欲しい場合には事務局から口頭で説明する。口頭でできない場合には持ち帰って後日資料を送っていただくという形で前に進めたいと思う。
 - ・ 素案について議論をしていく際の3つの方向性示す。
 - 一つ目は横ぐしで物事を考えるという視点を持つ。
 - 二つ目は館林がということを意識する。
 - 三つ目は「現状と課題」に関して、データが必要な場合には、事務局にデータを要求する。全部にデータを要求することになると、長い時間がかかってしまうので、一つのセクションにつき1個か2個としていただく。

② 次回部会開催日程の確認

次回の部会開催日程について確認を行いました。決定後、通知いたします。

(4) 閉会